

## 研修プログラム：高校生の日本語教育・指導のためのオンライン研修

### 「多様な言語的文化的背景をもつ高校生のための学習環境づくり」 第1回「学習環境としての活動デザイン」

#### 研修プログラムの開発・提案について

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構外国人児童生徒教育推進ユニットでは、外国人児童生徒等を対象とする日本語教育（指導）に関する研修を実施しています。その成果をもとに、自治体・学校・地域の支援団体等でこの領域の研修を実施する際に、ご活用いただけるように、次の3種類の研修プログラムを開発し・提供することにしました。

- ① 高校生の日本語教育・指導のためのオンライン研修
- ② 日本語教育・指導の実践交流（対面研修）
- ③ 日本語教育・指導の実践交流（対面研修）

いずれの研修においても「子どもたちの多様性が生きることばの教育」をテーマにしています。文化間移動をした子どもたちが、母語や母文化等の多様性や出身国・地域等での経験を活かし、学級・学校・地域社会の一員としてその力を発揮できるように、「ことばの教育」として日本語教育（指導）をデザインし、実施することを提案する研修です。新たな視点とアイデアで、学びの場・内容と活動についての情報を提供するのみならず、教育・支援のあり方を対話し、かれらをエンパワーメントすることばの教育について、具体的に構想することを目的としています。

各プログラムの構成は以下の通りです。それぞれのプログラムをダウンロードし、研修の企画・運営の参考にさせていただければ幸いです。

#### プログラム 第1回研修「学習環境としての活動のデザイン」

##### 1 ねらい—3回の研修を通じて

高等学校においても2023年度より「特別の教育課程」による日本語指導の制度化が施行されました。外国人生徒等が、共生社会の一員として自己を実現するためにも、この制度を利用して日本語指導の充実を図りつつ、その学習を教科学習、キャリア形成、社会的活動への参加等に関連付けて、自己を開拓するための力を育むことが期待されます。

この研修では、多様な言語的文化的背景をもつ生徒たちが自分の未来を切り開き、社会参画するためのことばの教育・支援を検討する。それには生徒自身が、自分をもつ潜在的な力に気づき、さらにその力を能力として開拓できる、つまりかれらをエンパワーメントすることが重要です。本研修では「日本語指導」を、外国人生徒等が、その多様性を活かして主体的に参加し、新たな価値を創造する「ことばの学習」のための「学習環境のデザイン」という視点で捉えます。学習環境を、「活動」「人工物（教材・教具等のリソース）」「コミュニテ

ィ（共同体）」の3つの側面からいかにデザインするか、事例や現場の取り組みをもとに具体的に学びます。

## 2 概要

時間	150分（2時間30分）
主たる受講者（対象）	高校で学ぶ外国人生徒等、および高校生相当年齢の子どもに日本語指導・学習支援等の支援を実施している教師・支援者等
テーマ	学習環境としての活動のデザイン
ねらいとする資質・能力*	<p>&lt;捉える力&gt;</p> <p>エ 認知面の力と教科などの学力を年齢的な発達や学習経験を考慮して捉えることができる。</p> <p>ク 子どもがどのような自己像を描き、どのように社会参加し自己実現ができるかを、社会の変化とともに展望することができる。</p> <p>&lt;育む力&gt;</p> <p>セ 学校内外の生活・学習に結び付けて、日本語や教科の指導・支援、内容と日本語を統合した指導・支援をすることができる。</p> <p>&lt;変える力&gt;</p> <p>ヒ 子どもが自身の多様性を支援にして活躍できる教育を実施し、多文化共生を促すことができる。</p>
研修内容	<p>1 学習環境デザインの考え方で、「日本語指導」の活動を取り上げて検討する。生徒の興味・関心に基づき、母語・母文化、これまでの経験、思考・判断する力を活かして、ことばの力を耕し育む活動について具体的な事例をもとに考える。</p> <p>2 「特別の教育課程」による日本語指導を実施している東京都立青梅総合高等学校が、具体的な指導体制や指導内容について報告する。</p>
事前学習課題（参加に当たって）	<p>次のスライド資料を事前に見て学んで参加すること          東京学芸大学先端教育人材育成推進機構外国人児童生徒教育推進ユニット（2024）『高等学校における日本語指導の制度化—「特別の教育課程」としての編成・実施について』</p> <p>&lt;1&gt; 基本的な考え方と制度の解説          &lt;2&gt; 「特別の教育課程」として日本語指導の編成・実施のポイント          &lt;3&gt; 高等学校における日本語指導の現状と課題</p>

※文部科学省 「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」の「豆の木モデル」（日本語教育学会 2019）にもとづく

## 3 第1回 実施計画

活動展開	具体的な内容・活動	利用した資料等
①説明「研修テーマ、趣旨、目標」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本研修の趣旨</li> <li>・ねらいとする資質・能力</li> <li>・研修終了後の振り返りの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修趣旨のスライド資料</li> <li>参考文献：山内（2020）</li> </ul>
②講義「学習をデザインする」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習環境</li> <li>・デザイン活動とは</li> <li>・デザイン思考</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参考文献：ハーバード・サイモン（1999）／ティム・ブラウン（2019）</li> </ul>
③講義「学習」環境としての活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創造的経験的学習（ワークショップ）</li> <li>・タスクベースの言語指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参考文献：山内（2020）／松村（2017）</li> </ul>

<p>④講義「日本語指導・学習支援例」</p> <p>③事例報告</p> <p>④グループワーク 「生徒の経験や力を活かす活動」</p> <p>⑤振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間「金融リテラシー」</li> <li>・学校設定科目：日本語「折れ線グラフから読み取ろう」</li> <li>・学校設定科目：日本語「受け身」</li> <li>・特別の教育課程：日本語指導「質の高い教育をみんなに」</li> </ul> <p>小グループで話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介</li> <li>・生徒のもつ力や経験を活かすための学習活動のアイデア</li> </ul> <p>アンケート記入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度</li> <li>・今後の活用のアイデア</li> <li>・資質・能力の向上の有無</li> </ul>	<p>参考文献：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本ユニット 2023 年度研修報告書</li> <li>・本ユニット（2023）「高等学校の日本語指導・学習支援のためのガイドライン」</li> <li>・本ユニット（2024）「高等学校における日本語プログラム」</li> </ul> <p>講師作成スライド</p> <p>グループ活動の課題</p> <p><b>話し合い:生徒の経験や力を活かす活動</b></p> <p>ご自身が行っている日本語の授業や学習支援で、生徒が知っていること(学んだ知識や経験したこと)や好きなこと・できること(趣味・運動、アート、その他何でも)を活かして行っている活動を紹介してください。できるだけ、生徒自身が決定し、探究し、創造する活動に。また、協働で課題を達成したり、対話によって多様なアイデアに触れて考えを広め、深められるような活動を。    実際には行ったことはないけれども、こんなアイデアがあるという紹介でも構いません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 生徒のどんな知識・経験・強みを生かして</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> どんな言葉・表現を使いながら</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> どんな活動をするか</li> </ul>
<p>参考文献・資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山内祐平（2020）『学習環境のイノベーション』ミネルヴァ書房</li> <li>・ハーバード・サイモン（1999）『システムの科学』パーソナルメディア</li> <li>・ティム・ブラウン（2019）『デザイン思考が正解を変える』早川書房</li> <li>・松村昌紀（2017）『タスク・ベースの英語指導』大修館</li> <li>・本ユニット 2023 年度研修報告書        : <a href="https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/M23_kenshu04_ogikubo2.pdf">https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/M23_kenshu04_ogikubo2.pdf</a></li> <li>・本ユニット（2023）「高等学校の日本語指導・学習支援のためのガイドライン」        : <a href="https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/M22_koko_nihongo_guideline.pdf">https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/M22_koko_nihongo_guideline.pdf</a></li> <li>・本ユニット（2024）「高等学校における日本語プログラム」        : <a href="https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/project02/content3.html">https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/project02/content3.html</a></li> </ul>		

(3) 資料 (URL にアクセスすれば、ダウンロードできます)

①趣旨・講義資料／グループワーク課題提示 齋藤ひろみ 東京学芸大学

②参考資料：現場の取り組みの報告 永田明久 東京都立青梅総合高等学校

③事前課題資料

[東京学芸大学先端教育人材育成推進機構外国人児童生徒教育推進ユニット（2024）『高等学校における日本語指導の制度化—「特別の教育課程」としての編成・実施について』](#)